



図5 表門跡礎石抜き取り跡の一部（平成23年度発掘調査写真）

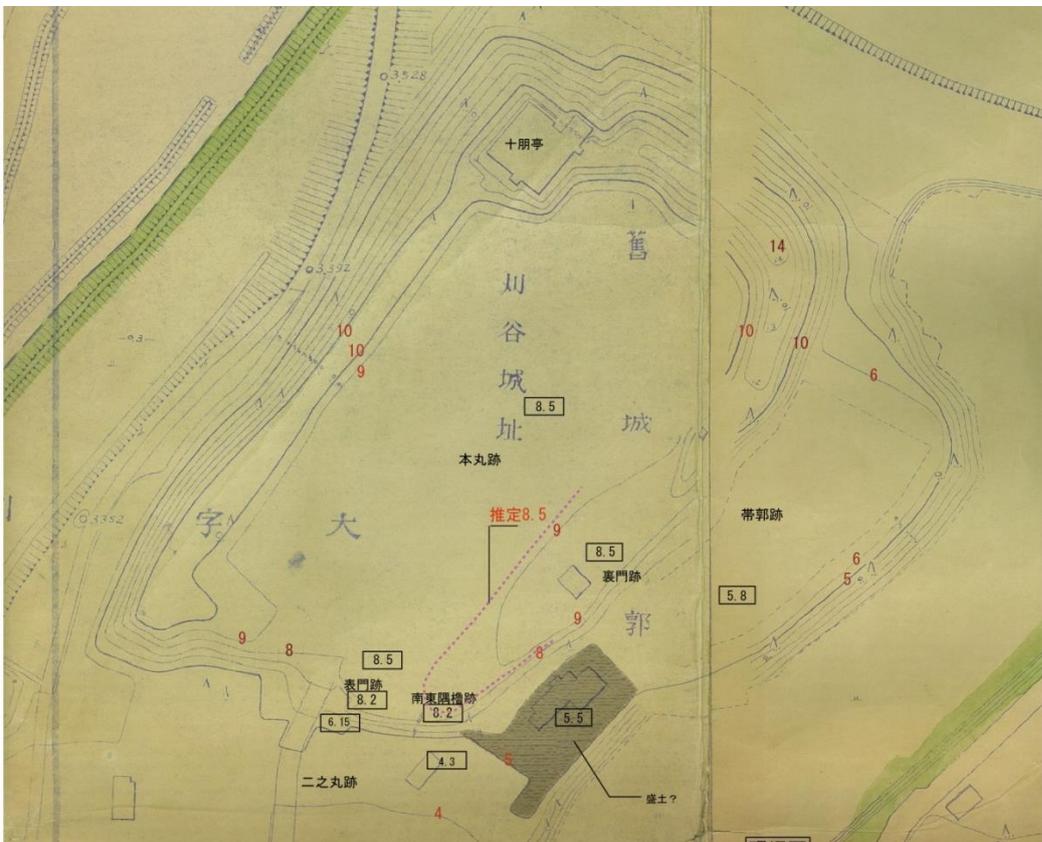
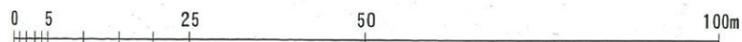
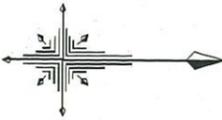
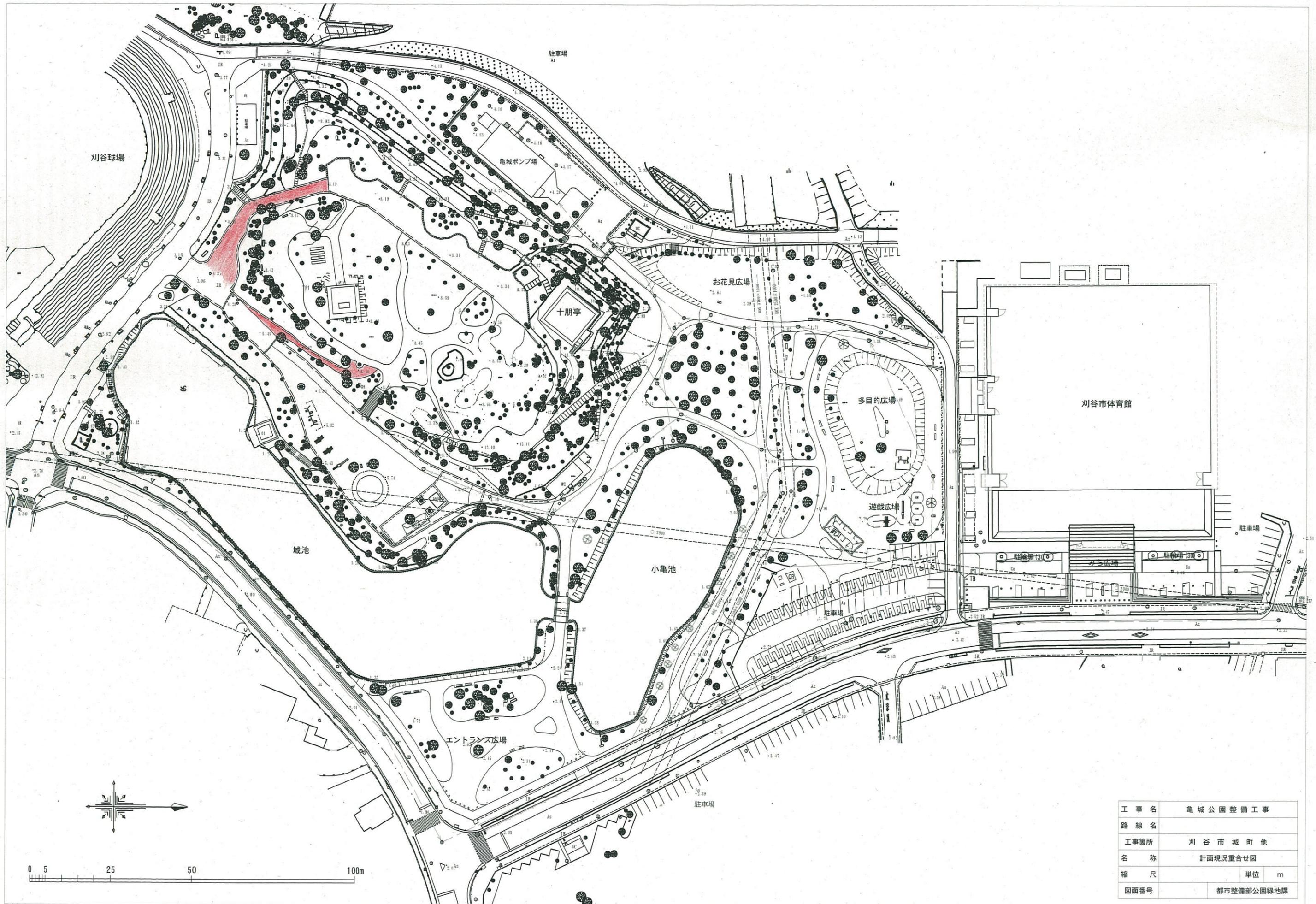


図6 亀城公園都市計画決定図面（該当箇所抜粋一部加筆）



| | | |
|------|------------|---|
| 工事名 | 亀城公園整備工事 | |
| 路線名 | | |
| 工事箇所 | 刈谷市城町他 | |
| 名称 | 計画現況重ね図 | |
| 縮尺 | 単位 | m |
| 図面番号 | 都市整備部公園緑地課 | |

(2) 裏門付近の多門櫓と土塁の取付案と絵図の整合について

■ 発掘調査結果についての検証

発掘調査結果では、地固め遺構が裏門虎口部から北東側に約 12.5m 延びて、北西方向に直角に折れ曲がり、約 8m 延びた以降、地固め遺構が確認できていない。土塁と石垣の取付部分につき、石垣の地固め遺構が確認できなくなっているものと思われる。



図 7 発掘調査結果

■ 絵図の検証について



図 8 刈谷城図

(稲垣家：1670)



図 9 三河刈谷城図全

(三浦家：1732)



図 10 刈谷城図

(徳川林政史：1872)

寛文 10 年 (1670 年) 以降に残る絵図では、土塁への取付部の手前まで多門櫓があり、そこから土塁に向かって土塀が設置されていることがわかる。

■ 修正案

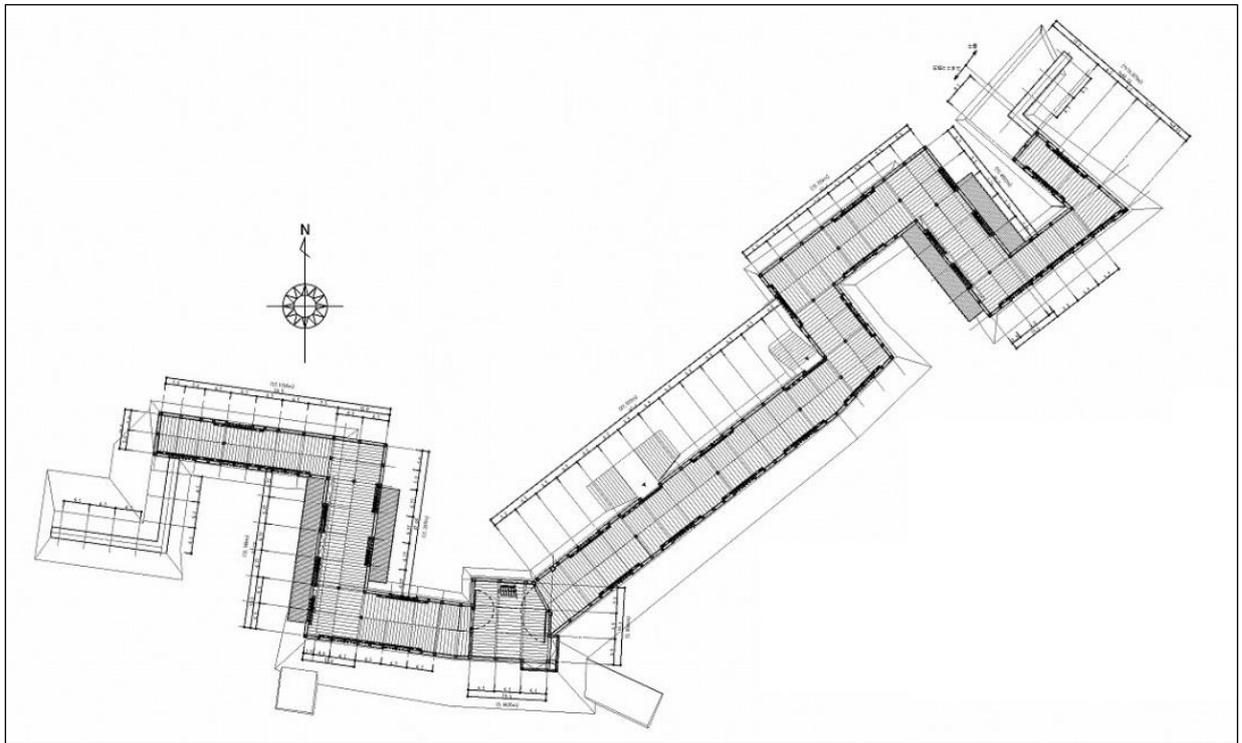


图 1 1 刘谷城多門櫓平面图

(3) 刈谷城本丸建造物の名称について

刈谷城本丸建造物の名称については、文献史料から建造物の名称を探ることとした。

主な資料としては、絵図面を使い確認した。使用した絵図面は、下記の通りで、結果的には、全ての多門櫓には名称が無く、櫓にも南東隅櫓に「三階南之櫓」と書いてあるだけであった。北西隅櫓は、「櫓」と書いてあるのみである。

但し、二の丸の櫓については、「月見櫓」という通称の名前があったことが「刈谷庄屋留帳」（1710~）からわかっている。

■ 刈谷城本丸建造物名調査一覧

| 資料名 | 種別 | 年代 | 南東隅櫓 | 北西隅櫓 | 多門櫓 | 表門 | 裏門 |
|------------------------------|----|-------------|-----------------|-------------|------|------|------|
| 1. 正保城絵図 (国立公文書館) | 絵図 | 1644~1648 頃 | 記名なし | 記名なし | 記名なし | 記名なし | 記名なし |
| 2. 鳥羽城郭古図 (国会図書館所蔵) | 絵図 | 1670 年 | 記名なし | 記名なし | 記名なし | 記名なし | 記名なし |
| 3. 刈谷城内分間図 (中根家所蔵) | 絵図 | 1710~1712 年 | 記名なし | 記名なし | 記名なし | 表門 | 裏門 |
| 4. 三州刈谷城図 全 (静嘉堂文庫所蔵) | 絵図 | 1732 年 | 「(本丸南之方) 三階之角櫓」 | 「(本丸北之方) 櫓」 | 記名なし | 表門 | 裏門 |
| 5. 刈谷城図 | 絵図 | 明治 5 年 | 存在せず | 存在せず | 記名なし | 表門 | 裏門 |
| 6. 三州刈谷城図 (小) (東北大学図書館所蔵) | 絵図 | 年代不詳 | 無し | 矢倉 | 記名なし | 記名なし | 記名なし |
| 7. 三河刈谷城図完 (静嘉堂文庫所蔵) | 絵図 | 年代不詳 | 無し | 矢倉 | 記名なし | 記名なし | 記名なし |

(4) 資料に見る狭間位置の検討

享保 17 年 (1732) 時の藩主である三浦家より幕府に提出されたとされる修復願い絵図には、本丸の南東隅櫓が宝永地震で崩れたこと、その跡に表門際より裏門際まで新規に塀を作りたい旨などが書かれている。そこには、新規の塀の規模も書かれており、表門際から南の方に高さ七尺、長さ五間、裏門際より南の方に高さ七尺、長さ十六間折廻りと記されている。その後、塀の規模を記した後に矢窓 (狭間) が 40 か所取付けたい旨が書かれている。この記載された通りに作られたかは、不明であるが、この形態が大きく変わることなく明治 5 年 (1872) 頃まで続いていたと思われる。

この当時の石垣の形状、規模がどの程度であったかは不明であるが、今回の復元した石垣から上記資料に記載された塀の数値を当てはめて矢窓 (狭間) の数を検証し、狭間位置を検討する。

塀の総長さは、21 (5+16=21) 間となり、そのなかに矢窓 (狭間) が 40 か所とするとほぼ、1 間に 2 か所矢窓 (狭間) を入れる計画であったことが分かる。実際、この塀がどのような形式で、建てられたか不明であるが、施工上は、何ら問題のない数である。

三州刈谷之城櫓并塀取建之覚
一 従本丸北之方櫓壺ヶ所先年より御座候処、去亥五月大雨ニ而崩落、其刻御届申上取除置申候、此度前々有来通櫓取建如元建直申度奉存候事
一 右櫓最前者柿屋根ニ而御座候、此度瓦屋根ニ仕度奉存候事
一本丸南之方先年三階之角櫓御座候処、阿部伊予守領地之節地震ニ而崩申候旨御座候、其後右右櫓跡斗御座候間、此所古来より御座候石垣之上江西南之方表門際より南之方角迄高七尺長五間、東之方裏門際より南之方角迄高七尺長拾六間折廻新規掛申度奉存候事
一 右折廻塀江矢窓四拾ヶ所付申度奉存候事
右櫓如最前取建之塀新規掛之矢窓付申度奉願候、以上
享保十七子年閏五月朔日 印
三浦志摩守 (花押)



三河刈谷城図 全 (本丸部分抜粋)
享保 17 年 (1732) 静嘉堂文庫所蔵

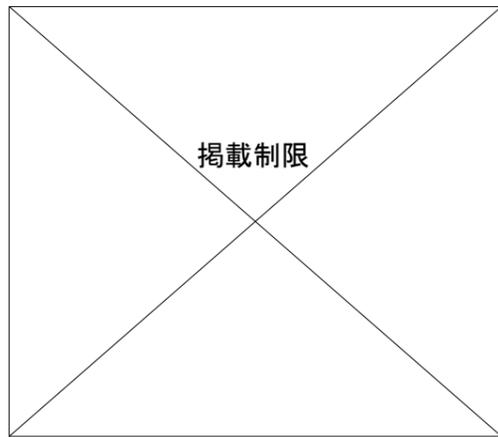


図1. 三河刈谷城図全 (本丸部分抜粋)
享保17年(1732) 静嘉堂文庫所蔵

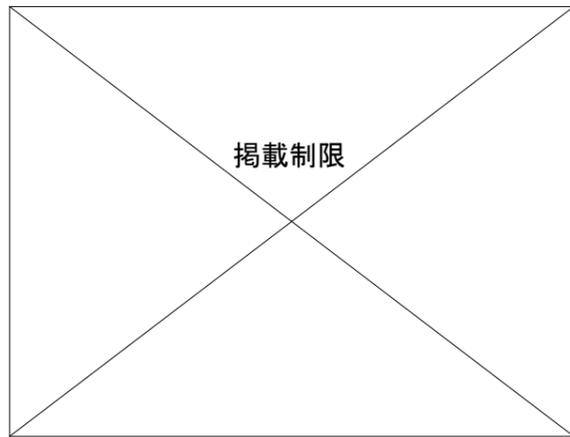


図2. 刈谷城図 (本丸部分抜粋)
明治5年(1872)頃 徳川林政史研究所 所蔵

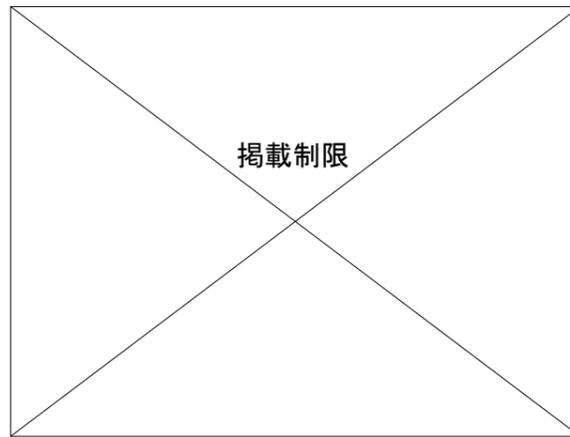
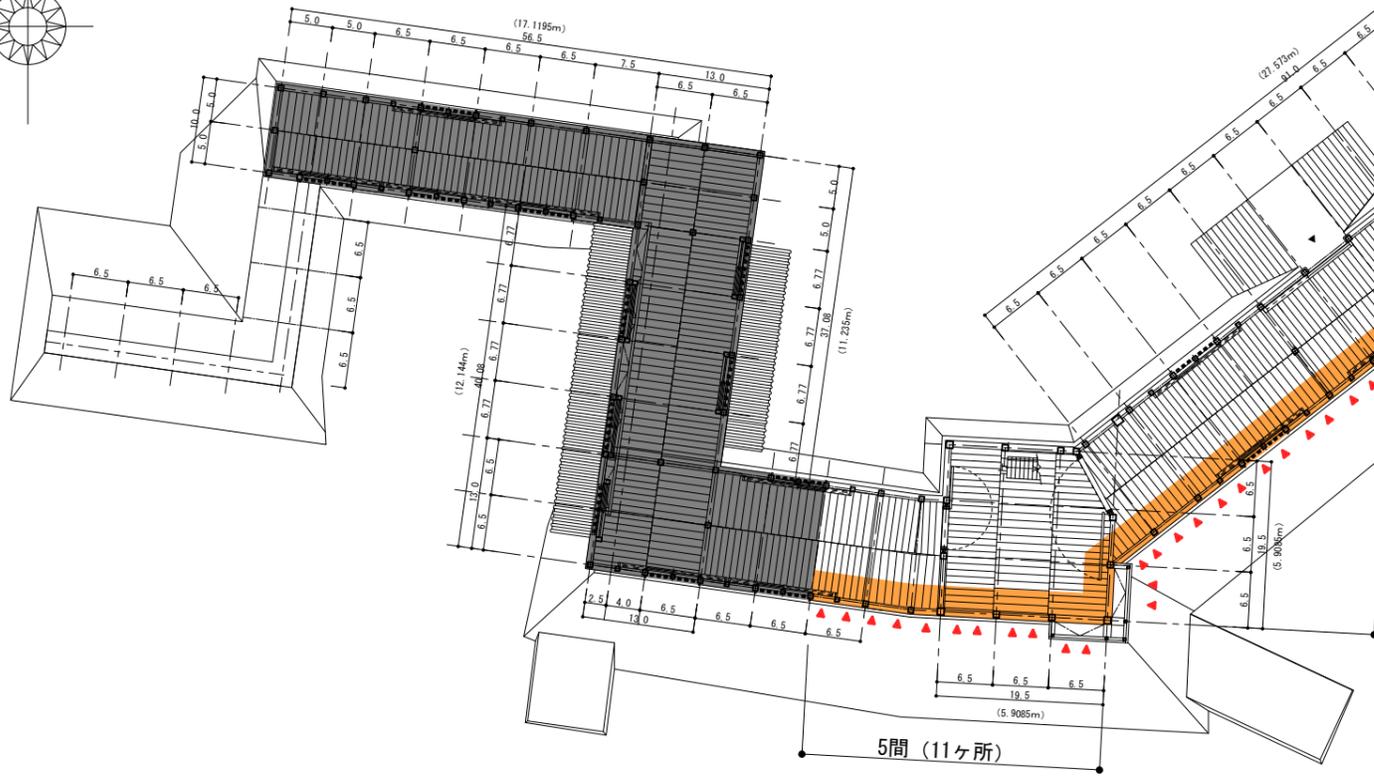
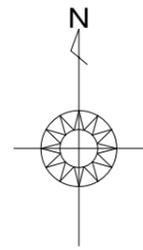
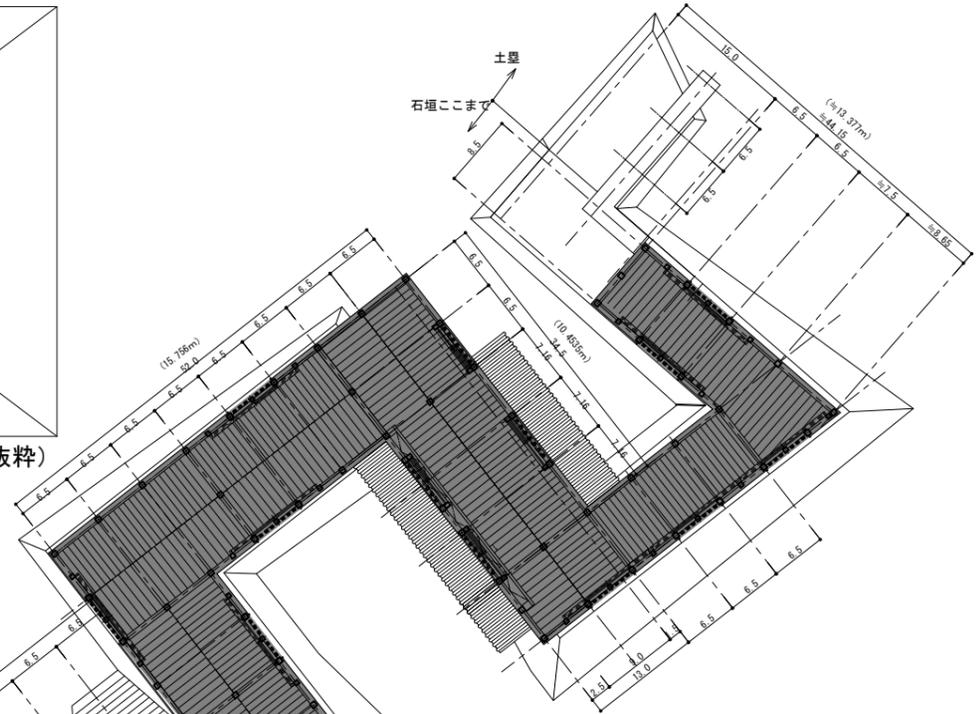
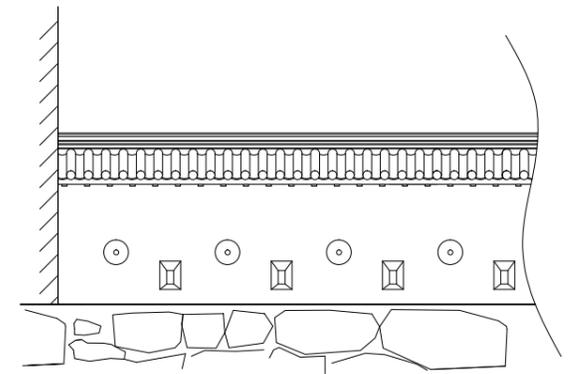


図3. 刈谷城図(鳥羽城郭古図) (本丸部分抜粋)
寛文10年(1670) 国立国会図書館 所蔵



復元平面図

■ 狭間数 : 43ヶ所 (11+32=43)
(上記絵図に基づいた塀に
半間毎に狭間を入れた場合の狭間数)



史料に基づいた推定塀立面図(部分)

- 凡例
- : 塀の推定位置を示す。
 - ▲ : 矢窓(狭間)を示す。